

もり 北の森林 国有林



写真：カルチャーナイト in 北海道森林管理局

今月のトピック

- ・ 国有林モニター現地見学会



2019
No. 44



国民の森林・国有林

林野庁 北海道森林管理局

令和元年度国有林モニター現地見学会

企画課

北海道森林管理局では、

国民の皆様にご理解いただき、現状をご理解いただき、国民の幅広い意見を把握し、国有林の管理経営に役立てるために、一般公募により平成30年4月から2年間の任期で全道各地の48名の方にモニターを委嘱しています。

7月6日に、空知森林管理署管内の国有林にて「令和元年度国有林モニター現地見学会」を開催しました。

今回は、午前中に採種園の見学と耕地防風林の施業を見学し、午後から間伐実施箇所の見学と利根別自然休養林の散策というコースで行いました。

由仁採種園

由仁町の採種園では、林木育種センター北海道育種場の牧野場長と千葉育種技術専門役から育種事業の内容や取組の説明をしていただきました。

モニターから、道有林との連携や品種などについて質問があり、毎年行っている種の豊凶調査の結果などを北海道と共有していることや、カラマツの花粉をグイマツの雌花に受粉してできるクリンラーチという品種がネズミの害に強く成長が早い等の利点があり、需要が高く道内に広く流通していることが紹介されました。



採種園で質問するモニター



育種事業の説明をする
千葉育種技術専門役

凸型防風林

長沼町の防風林では、耕地防風林が戦前から戦後にかけて造成された歴史と、現在、防風林の老齢化に伴う倒木、落枝や防風機能の低下などの課題に対応するための取組について管轄している木村首席森林官が紙芝居で説明し、現地を見ていただきました。

また、防風林の中で刈り払い機により下刈作業を行っている様子も見ることができました。

下刈作業を見て、「このような平らな場所では人が草刈りをしていては大変だ、農家なら自走式の機械で刈っている」との意見があり、森林の作業



ナナカマドを植栽した箇所での下刈りの説明



凸型防風林を紙芝居で説明

ではこのように平らな箇所はまれであること、一定程度の傾斜のある箇所

でも使用できる下刈機械の開発に力を入れていることを説明しました。

その他、防風林の植栽木にナナカマドを選んだ理由について質問があり、樹高があまり高くないナナカマドなどの木を林縁に植栽して、中央には樹高が高くなるヤチダモなどを植えることや、広葉樹の苗木の入手が難しいことが課題であることなどを説明しました。

間伐実施箇所

昼食後には、由仁町の間伐を実施した箇所を見学しました。これまで広報誌などを通じて列状間伐について紹介していましたが、実際の作業箇所でも、安全に作業ができて伐採や搬出にかかるコストも低くなるなどの特徴を知っていただきたいと考え、今回のメニューに加えま



トドマツの列状間伐を行った箇所



間伐の実施箇所の説明

現地では、列状間伐のメリットのほか、森林踏査や森林計画の樹立、収穫調査など伐採までの一連の流れを説明し、理解を深めていただきました。



列状間伐箇所をバックに記念撮影



輪尺を使って測樹体験

その後、輪尺という器具を使って立木（りゆうぼく）を測る体験をしていただきました。

この森林は、岩見沢駅から3キロメートルの位置にあり、面積は364ヘクタールです。林内には、広葉樹の大径木が点在し、鳥類や植物の種類も多く、憩いの森や観察の場所として多くの市民に利用されています。



利根別自然休養林の散策

最後の見学地の岩見沢市の利根別自然休養林では、緑豊かな森林の中で思い思いに散策を楽しんでいただきました。

利根別自然休養林

今後の予定

今年度は、冬に国有林モニター会議を開催し、この2年間の国有林モニター期間のあいだの感想やご意見を伺う予定です。また、広報誌等の情報をお届けしながら、北海道内や国内の森林・林業の置かれている状況や課題について、国有林モニターの皆さまと情報を共有するなかで、ご意見をいただきたいと考えています。

令和2年、3年度の国有林モニターを年末に募集する予定です。ホームページや広報誌でご案内しますので、是非ご応募いただき、皆さまのご意見をお聞かせください。

地域課題の解決に向けた取組

地域の主伐・再造林等の森林整備コストの縮減に向けて

網走中部森林管理署



一 はじめに

網走東部流域では、民有林の人工林も主伐期を迎え、これからは伐採が進む一方、造林未済地の対応が課題となっています。

再造林に要するコスト負担と、事業を請け負う林業事業者（会社）の高齢化と人手不足が大きな問題となっており、それらの解消が課題となっています。

当署では、この課題解決に向けて、平成28年から、「工程管理システム」の活用と「コンテナ苗を活用した一貫作業システム（伐採から植栽までを一貫的に実施）の普及」の二点を軸に、地域の主伐・再造林等の森林整備コストの縮減に向けて取り組みを進めてきたところです。

二 工程管理システムの活用事例

「工程管理システム」は、後志森林管理署で作成した、木材の伐採搬出の生産性向上に向けた各作業段階の工程等を簡易に分析し、作業工程や作業システムの見直しに役立つ

するための簡易なプログラムで、一般公開しているものです。

当署ではこれまで、工程管理システムの説明会や、各種会議での紹介などを進めてきており、昨年度は、工程管理システムの活用を進めている林業事業者からのデータ提供を機会に、データをさらに分析し作業システムの改善に取り組んできたところです。



グラップル付きフォワーダ

この事業体では、木材の搬出に従来から使用しているトラクタと、近年使い始めたフォワーダを併用しており、現場段階ではトラクタの方が慣れていて使いやすいこともあり、使用していたところですが、工程管理システムにより数値化した結果（グラフ参照）、フォワーダが約2倍の作業効

率であることが確認できたところです。

事業体では「なんとなくフォワーダがよいと感じていたグラフによりしっかり確認できた。」今年度、フォワーダの追加導入に自信を持って踏み切ることができた。との成果が得られたところです。



三 令和元年度の取組

① 工程管理システム
これまでの取組を更に進めるため、フォワーダ追加導入の結果と従来の作業システムとの比較など、改善した事例として情報提供します。

② 「コンテナ苗」

一貫作業システム
今年度は、伐採から植栽、その後の保育作業までの使用を考慮した、森林作業道等の路網配置を考える検討会の実施を計画しています。

これは将来的に、主伐と再造林作業において高性能林業機械の機動力を活かすとともに、植栽後の保育作業においても活用できる効率的な道づくりが必要との観点からテーマとしたところです。

また今後、林業の中でも重労働となっている下刈り等の作業強度の軽減にも繋がればとの思いがあります。

四 おわりに

地域には、森林整備コストの縮減や、造林未済地の解消など、多くの課題があります。これらの課題解決には、地域の森林林業関係者の連携・協力はもちろんのこと、地域の皆様との意見交換をしながら進めていくことが重要と考えていますので、引き続きご協力をお願いします。



北海道森林管理局ホームページでも工程管理システムの取組をご覧いただけます。

こんにちは 森林官です!

後志森林管理署
伊達森林事務所
首席森林官 成田 正樹



右が筆者

森林事務所の所在と 管轄する区域

森林事務所の所在は北海道南西部に位置し、道内でも降雪量が少なく四季を通じて気候が温暖なことから「北の湘南」とも呼ばれています。当事務所が管轄する区域は、胆振総合振興局管内のうち、伊達市、登別市、室蘭市及び豊浦町にある国有林です。面積は約15千ヘクタールに及び、ほぼ全域が保安林に指定されています。

管内の紹介

伊達・登別地区には火山地帯が多く中には著名な火山もあり、洞爺湖の南側にある「有珠山」もその一つです。

有珠山は3市町(伊達市、洞爺湖町、壮瞥町)にまたがっており、当事務所はこのうち伊達市に係る南側の約3分の1の面積を担当しています。20〜30年周期で噴火を繰り返している活火山であり、最後の噴火(平成12(2000)年)から約

20年が経過しているため、次の噴火に備えておかなければならない時期に差ししかかっているところです。

また、火山がある所には温泉があります。国内外を問わず多くの観光客で賑わう「登別温泉」は、その名の通り登別市にある全国的に有名な温泉観光地です。登別温泉には「地獄谷」、「大湯沼」と呼ばれる2つの大きな温泉池があり、高温の火山ガスや熱水が常に噴き出しています。人気の観光スポットであるため、実際にご覧になった方もいらっしゃると思います。



火山ガスが吹き上がる地獄谷

どちらも国有林で、「地獄谷」は支笏洞爺国立公園

園の特別保護地区、「大湯沼」は特別地域に指定されています。

森林官の仕事

さて、肝心な森林官の仕事ですが、森林の整備計画を立てるために森林の蓄積や立地条件を事前調査する「地況・林況等調査」を行ったり、崩土や落石等で林道の通行に支障が出ていないか点検したり、国有林と民有地の境界が相互に侵害されていないか巡視したり等々：ここでは紹介しきれない程多岐にわたります。

時には、森林が大雨や強風で突発的な被害を受けることもあり、その際は被害状況を迅速に調査します。

先に紹介した有珠山にも台風等に見舞われ大きな被害を受けた場所があり、倒木を撤去した跡地に再度植樹して森林の再生を図っています。このような森林づくりの作業を現地で指示・監督することも森林官の大きな仕事の一つです。



平成 25 年風倒被害直後の状況



現在の状況

おわりに

私たちは、森林から国土の保全や水源の涵養など様々な恩恵を受けていますが、適切に管理経営を実施しなければ、その機能が低下したり失われてしまうこともあり得ます。

今後も管内の巡視や点検などの業務を着実に実行し、多様な森林づくりに励んでまいります。

も 林 の 話

第3話
網走西部森林管理署
西紋別支署
寺田 崇晃

もしスズメバチがそこにいたらその場をすぐに離れなくなってしまうですが、そのスズメバチのふりをして天敵から逃れようとする昆虫がいます。

オオトラカミキリはスズメバチに似た模様をしますが、カミキリムシという木材を食べる昆虫の仲間です、もちろん人を刺すことはありません。



オオトラカミキリ(♀)

オオトラカミキリは体長3cmほどの大型のカミキリムシで、国内では北海道から九州まで広く生息しており、道内ではほぼ全域に分布しています。成虫が7月中頃から8月にかけて現れますが、他のカミキリム

シと違って伐採した木にほとんど集まらないため、その姿を見ることは容易ではありません。

オオトラカミキリは幼虫がトドマツ生立木の形成層と辺材部を食べますが、幼虫が食い進んだ痕はミミズのように樹皮が盛り上がり、さなぎになる部屋を作った周囲の樹皮は年数がたつとはがれて渦巻きのような食痕が見えるようになります。



食害を受けたトドマツ

このようにオオトラカミキリはトドマツの害虫となつていますが、その被害はたった2匹のオオトラカミキリに食べられたトドマツが枯れてしまうこともある

ほど強力です。被害に遭った木が枯れなかった場合にも食痕から腐れが入ってしまったたり、幹が変形してしまったりするなど、木材としての価値が下がってしまいます。また、被害に遭った木は風に弱くなり、食害されたところから折れやすくなります。私は被害の著しいところを見たことはありませんが、植栽したトドマツの50%以上が被害を受けた例もあるようです。



食害で枯死したトドマツ

西紋別支署のある滝上町での成虫の目撃情報はありませんでしたが、山でトドマツを見ていると少ないながらも幼虫の食痕がありま

すので、町内の広い範囲に生息しているようです。ただし生息しているからといってそう簡単に出会えるものではなく、昨年は町内で比較的痕跡の多い林道を休日一日中探してみても、出会うことはできませんでした。



滝上町内で見つけた食痕

署内でこのカミキリムシを見たことがないか聞いてみると「他のところにいる時、いつの間にか身体に付いていて、ハチだと思った」という方もいました。これからの季節に山を歩くと、もしかしたらオオトラカミキリに出会えるかもしれません。



森林のこともっと知りたい

詳細は

森もりスクエア

検索

奥尻島で森林教室を開催！

7月6日(土)、奥尻町の「復興の森」で、教育委員会主催の「おくしり自然塾～森林編～」が開催されました。町内各地から児童9名と保護者ほか約20名が参加し、ブナ天然林内を巡る1.5kmの遊歩道で森のクイズラリーと種とばしを実施しました。クイズラリーは、実際に見て触って香りを嗅いで答えを出すもので、子どもたちは、葉緑素を持たない不思議な花(ギンリョウソウ)を見つけたり、いい香りがするクロモジに驚いたり、自分たちで森での楽しみを見つけ、元気な声が森中に響き渡っていました。最後に、種の模型による種とばしを実践し森林教室を終了しました。(檜山森林管理署)

浦河小学校と堺町小学校の木工体験学習

6月28日(金)に浦河小学校、7月12日(金)に堺町小学校の5年生を対象に、「木工体験を通じて、木に関心を持つこと」を目的に、木工体験学習を日高振興局と協力し開催しました。まず森林のことを知ってもらうために、紙芝居を用い、森林は昔から人間の生活に密接に関わってきたことや木材が生活の様々な所に使用されていることなどを説明しました。木工体験では、丸太や木の板で、コースターや表札作りを行い、イラストをカーボン紙で複写して色を塗ったり、木の実や小枝で飾り付けたり、好きな絵を描いたり思い思いに楽しみ、最後に丸太切りを体験しました。(日高南部森林管理署)

地域ぐるみで育てる 未来の林業・林産業の担い手

当署、旭川農業高等学校、上川総合振興局北部森林室、下川町の4機関において、「未来の林業の担い手となる人材を育成することを目的」とした連携協定を締結しました。この協定に基づいて、3ヶ年で林業の一連の流れを実習体験するための「人材育成プログラム」を実施し、3年目を迎えた今年度1回目として7月11日～12日に旭川農業高等学校森林科学科の3年生39名を対象に林業実習等を行いました。



(上川北部森林管理署)

子ども樹木博士認定会

7月5日(金)、標津町との共催による「子ども樹木博士認定会」を開催しました。参加者は標津中学校2年生27名、川北中学校1年生13名の計40名です。森林公園散策では、実際に触って観察しながら樹木の葉の見分け方や名前の由来を説明。認定試験では、散策時に覚えた10種類の樹木の枝葉を見ながら、名前を回答するもので、スラスラと回答している生徒が多いようでした。また、ドローンで撮影した動画視聴や野鳥の鳴き声を調べたり、航空写真の立体視体験、知床財団によるヒグマの講話など盛りだくさんの体験をしました。(根釧東部森林管理署)

利尻富士町立鴛泊中学校1年生 「森林・林業体験学習」に講師派遣

7月12日(金)、鴛泊中学校1年生20名を対象に宗谷総合振興局森林室主催の「森林・林業体験学習」で、利尻森林事務所森林官(木育マイスター)が講師を務めました。プログラムの第1部は(1)森林官の仕事(2)木材と私たちのつながり(3)利尻島の森林の現状と将来(4)育苗から伐採までの流れの説明、第2部はアカエゾマツの枝打ち・除伐・森林調査体験、第3部は木育の取組紹介、第4部は体験学習の感想や利尻島の森林について今後の予想、将来を担う生徒たちが自分に出来ることについてまとめ、発表しました。(宗谷森林管理署)

札幌水源の森づくり 2019

定山溪の森（国有林）は、私たち札幌市民にとって豊かでおいしい水を育む大切な水源の森です。

「札幌水源の森づくり」は、市民のみなさんと一緒に貴重な財産である水源の森を育み次世代へ引継ぐ取り組みです。

参加無料

**日時：令和元年8月24日（土）
10時～12時終了予定（雨天決行）**

**会場：創成川公園・狸二条広場
（札幌市中央区南3条東1丁目）**

- ポット苗木を作るコーナー
- ラベンダーの花苗プレゼント（先着100名）
- きぼう（木棒）づくりコーナー
- 木のボールペンづくり・木の漢字パネル
- 「森・水」等のクイズコーナー
- パネル展示

—お問い合わせ先— 石狩地域森林ふれあい推進センター 011-622-5114



今月の表紙 カルチャーナイト in 北海道森林管理局

7月19日（金）、公共施設等を夜間解放して地域の文化を楽しむ催しが、札幌市内の100箇所以上の施設で行われました。

北海道森林管理局では、1階のホールを会場として開催したところ、これまでで最大の300名を超える皆さまにお越しいただきました。

夏の宵に、木の種の不思議や、木のコースター作り、森の紙芝居や「お山ん画」のパネル展示など、小さなお子様から大人まで、それぞれに森からの贈り物を楽しんでいただきました。

今後とも、こうしたイベントなどを通じて森林の魅力を発信していきます。



庁舎の外観（夜）



木の種の解説と実験



子どもに大人気の「森の紙芝居」



木のコースターづくり

もり
広報 「北の森林 国有林」 8月号
発行 北海道森林管理局
編集 総務企画部 企画課
〒064-8537 札幌市中央区宮の森
3条7丁目70
I P 電話 050-3160-6300
電 話 011-622-5213
F A X 011-622-5194
<http://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/>

行事・イベント情報

「道民森づくりの集い」
日時：9月8日（日曜日）
10時～15時
場所：野幌自然公園
（開拓の村、自然ふれあい交流館）